

2021年度 公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費 実績報告書

2022年4月28日

北九州市立大学長 様

（所属・職名）外国語学部・准教授

（氏名）齊藤 園子

2021年度に交付を受けた公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

研究課題名	19世紀のローマにおけるアメリカ人コミュニティの実態に関わる 国際共同研究——現地調査の推進					
	合計	使用内訳（単位：円）				
交付決定額	600,000	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
執行額	600,000	177733	294997	42,472	78421	0
執行残額	0					
共同研究者	所属・職名		氏名		役割分担等	
	外国語学部・准教授		齊藤 園子		研究代表者	

研究分野： 英語圏文学、アメリカ研究

キーワード： 在欧アメリカ人、ローマ、文化的アイデンティティ、コミュニティ

研究成果の概要（和文）

ポストコロニアル理論や文化的アイデンティティの概念を援用して在欧経験を扱うアメリカ人作家の作品の研究を進めるとともに、19世紀の米国ニューイングランドにおけるユートピア的共同体を扱う作品の研究にも着手した。昨年度に審査を経て掲載が決まっていた論文について校正を進めて出版に至った。また審査を経たのちに国内学会における発表が決まっていた研究について口頭発表を実施し、その後プロシーディングスがウェブ掲載された。いずれも欧州における「アメリカ人」の中間的で流動的なあり方に着目する研究である。合わせて、様々な文化的背景を持つアメリカ作家や作品を扱った論集の書評を執筆し、学会誌に掲載された。コミュニティ（共同体）という観点から、19世紀半ばに創設されたユートピア的共同体を題材とする作品の研究について、ウィズコロナ、アフターコロナを共通テーマとするシンポジウムにおいて現時点での研究成果を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

米国作家ジェイムズの戯曲やその舞台化に着目する研究や、舞台芸術のひとつであるミュージカルの国際的な制作過程や受容のあり方に着目する研究は少ない。本研究の観点から欧州におけるアメリカ人の中間的・流動的位置づけの有様を浮き彫りにしようとする試みの学術的意義は大きいと言える。またアメリカ人コミュニティという観点から、19世紀ニューイングランドという米国内におけるユートピア的共同体との関連に着目する点は独創的である。

1. 研究の背景

研究代表者は、長年欧州に暮らしたアメリカ作家ヘンリー・ジェイムズ作品に着目し、欧州と米国の慣習の差異を扱う、いわゆる「国際テーマ」と呼ばれる作品群を再考することに関心を持ってきた。特に近年は、多くのアメリカ人が芸術面でも多大なインスピレーションを受けたローマに焦点をあて、在欧アメリカ人の生活実態を、同国人コミュニティという観点から研究してきた。2019年度にはジェイムズによる最初期の作品のひとつ、*Watch and Ward* (1878)の訳書『後見人と被後見人』を出版したところである。

2. 研究の目的

上記の訳書の出版に際して行った現地調査を基盤として、さらに発展的な実態調査を行うことを目指した。特に、ローマのアメリカ人の生活において、同国人コミュニティが果たした役割に着目して現地における実態調査を拡充して進めることで、欧州におけるアメリカ人の中間的・流動的位置づけに関わる研究の精緻化が期待できる。

3. 研究の方法

研究代表者のこれまでの研究を通じて構築された研究ネットワークに基づいて国際的な研究チームを形成して研究を遂行することを計画した。2020年度には同テーマの予備研究に対して特別研究推進費を交付していただき研究を推進した。しかし新型コロナウイルス感染症の拡大により、共同研究者と連携して行う現地調査を実施することができなかったため、2021年度に改めて現地調査を推進する計画を立てたものである。しかし、今年度も現地調査は見送ることとなったため、本研究の中心は、日本で調査が可能な図書やデジタル資料の利用を通じた文献調査となった。文献調査を通じて、米国内に形成されたコミュニティにも幅を広げる研究に着手することができた。

4. 研究成果

多文化状況を扱う作品が、英国において舞台化された際の状況をもとに、アメリカ人登場人物の表象の問題（アクセント、服装、行動パターン）を扱う論文[Saito, Sonoko. "Imitation and the Construction of Tradition: Henry James and the

Representation of the American Voice,” pp. 161-76.]が、校正を経て第8回ヘンリー・ジェイムズ国際学会の論集（*The Sound of James: The Aural Dimension in Henry James' s Work*, edited by Leonardo Buonomo, EUT Edizioni Università di Trieste, 2021, 297 pages.）に掲載されて出版された。前年度に審査を経て掲載が決まっていた論文である。また日本アメリカ演劇学会の会誌に、「＜革命＞の影響と変容——ミュージカル『レ・ミゼラブル』の文化的アイデンティティに関わる一考察」（『日本アメリカ演劇学会』第32号、44-64頁。）が校正を経て出版された。当該論文も前年度に審査を経て掲載が決まっていた論文である。

合わせて事前審査を経て、オンライン（Zoom）で行われた日本英文学会第93回全国大会において口頭発表をするとともに、プロシーディングスがウェブ掲載された（「Henry James の国際テーマの作品における『アメリカン・コロニー』の役割」（『日本英文学会第93回大会 Proceedings』））。

加えて、様々な文化的背景を持つアメリカ作家や作品を扱った論集『テキストと戯れる——アメリカ文学をどう読むか』（高野泰志、竹井智子編）の書評が日本ナサニエル・ホーソン協会の会誌『フォーラム』に掲載された（59-67頁）。また日本ナサニエル・ホーソン協会九州支部研究会3月例会のシンポジウム「ホーソン作品から考える、ウィズコロナ・アフターコロナの人、物体、環境の関係性」を企画して竹井智子氏、青井格氏、竹内勝徳氏と開催した。本シンポジウムでは司会を務めるとともに、研究発表を行った。研究発表では、米国ニューイングランドのユートピア的共同体における人間関係を扱ったホーソン作品『ブライズデイル・ロマンス』に着目し、「ブライズデイル共同体におけるホモソーシャルな絆」と題して発表した。その他、本研究の成果の一部について、現在論文の投稿準備を進めている。